

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

vol. 39
2013年1月号



2013年。世界の現状を知ること、
アフリカから学ぶこと、日本を見直す
こと、そして、何かをプラスして自分
にできる新しいことを見つけませんか。
子どもたちの未来につなげるユニセフ
活動の輪がどんどん広がる明日を。
(事務局長 福井康代)

RUBINGO SCHOOLにて。いつまでも手を振り、見送る子どもたち。アフリカはとてもフレンドリーな国だ。

CONTENTS

2-5

WE ♥ AFRICA

まるごとアフリカ大特集

●ケニア編●
マサイを知ろう

6-7 活動ファイル

●ルワンダ編●
ユニセフ支援活動最前線

8 お知らせ



ジャクソン・オレナレイヨ・セイヨさん（写真中央）
ケニア共和国リフトバレー州トランスマラ県エナイボルクルム村在住。現在も、牧畜を基盤とするマサイ族の伝統的な生活を送っている。

永松真紀さん（写真右）
1996年から本格的にケニアに移住。2005年4月、ジャクソンさんの第二夫人となり、夫と共にマサイの文化を伝える活動に力を入れている。著書に『私の夫はマサイ戦士』がある。

早川千晶さん（写真左）
ケニア・ナイロビ在住18年のライター。執筆活動のかたわら、ナイロビ最大級のスラム・キペラテ、貧困児童のための寺子屋「マゴソスクール」の運営やミリティーニ村でジュンバ・ラ・ワト（子どもの家）を運営。

WE ♥ AFRICA ケニア編

マサイを知ろう

10月21日にコープこうべ生活文化センターで行われたトークショー「マサイの戦士がやってきた」。
ジャクソンさんと永松さんへ早川さんがインタビュー。
イベントを通してマサイの暮らしを知ることができました。



WE ♥ AFRICA わたしがアフリカから もらったもの

首都ナイロビから車で約6時間。舗装されていない道を走ることに、少し不安を感じていました。マサイマラ国立保護区へ近づくにつれ、広大な土地にたくさんの動物がいました。しばらくすると、その地平線に夕日が吸い込まれるように落ちていくのが見えました。私は、このスケールの大きさに感動しました。

翌朝、サファリドライブ。私が見た動物は、ライオン、ゆったりと歩くゾウの親子、青い空に届きそうなキリンたち。シマウマの集団。地平線からつながったように歩くヌーの群れなど悠々とくらす動物たちでした。ゆったり時間が流れていきました。そこには、私たちが忘れてしまっている大切なものがあることに気づきました。

私は、ケニアで出会った人たちからもたくさんの『ありがとう』をいただきました。ツアーガイドさんの「お客様第一だよ」の言葉は忘れられません。また1つ、アフリカの人たちの温かさを実感しました。訪問したマサイ村では、リーダーの7人の奥さんたちから歓迎を受けました。みんなで手をつなぎダンスをしていると優しい気持ちになりました。住居にも案内してもらいました。真暗な部屋の中での生活は想像以上でしたが、これが実際の生活だと思いました。

このツアーでは大都市ナイロビ、そして自然と共に暮らすマサイの村の違いが見えました。そのギャップに驚きはありますが、これもアフリカの姿だと思います。ケニアの人との出会いに感謝！ 私に豊かな気持ちを与えてくれるのがアフリカかもしれません。

（ユニーズ 福井沙織さん）

WE ♥ AFRICA

まるごとアフリカ大特集

グローバル化が進む中で今、アフリカでは何が起こり、人々の暮らしはどう変わろうとしているのだろう。
兵庫県ユニセフ協会では
9月に設立10周年記念スタディツアーを実施し、ルワンダ、ケニアを訪問。
10月にはケニアからマサイ族のジャクソンさんたちをお招きしてイベントを開催。
どんなアフリカが見えたのだろうか。

マサイ族ってどんな民族？ マサイの暮らし、入門講座

くちぶえ

「水を飲みます」「草を食べなさい」など、口笛で動物とコミュニケーションをする。全部で推定1300頭の牛、ヤギとヒツジを飼っている。

つうしん

マサイの人も携帯電話を使う。牛が盗まれたときなど緊急時の連絡手段として非常に便利。



たべもの

マサイの主食は牛乳で一日で5〜6リットルほど飲む。ひょうたんに入れておく。ひょうたんは嫁入り道具でもある。昼食は食べない。学校も給食はなく、家に帰って牛乳を飲む。牛乳ばかり飲んでいてもお腹は壊さず、逆に穀物などを食べるとおなかの調子が悪くなる。



やり

重い。上と下の部分で刃になっている。

ことば

マサイのことばであるマー語を話す。「こんにちは」は男性の場合「ソファ」と呼びかけ、「エバ」と答える。女性の場合は「タクエニア」「イコウー」。

すうじ

マサイ族は数を数えない。そのため自分が何歳なのかを知らない。永松さんの推定では45歳だそう。

たて

危険から身を守る。危険な動物というのはライオンと人間。

伝統的な マサイ族の一生



5〜7歳くらい

一日中、放牧に出かけ、家畜の育て方を知る。何をしたら危険なのか、どこに居たら危ないのかなどを身をもって学ぶ。



13〜15歳くらい

男は安全を守る部隊として働く。ライオンと戦い、仕留められればようやく一人前の勇敢な男として認められる。亡くなる人もいるそう、まさに命がけだ。



25〜50歳くらい

適齢期になったら結婚し、男は家畜の管理。女は家事。電気、水道、ガスは通っていないので水、薪の調達をしたり、家を作ったり。マサイは一夫多妻制。



50歳くらい

これまでに培ってきたたくさんの知恵や絆をもとに、村の相談役として村の調和を保つ。

マサイの暮らしの変化

子どものころは雨がよく降っていたから、自然がもつと広大で豊かでした。今は、雨が降らないから草も少ない、水もない。牛たちも十分な牛乳を出せなくなりました。森の木を切っているせいじゃないかなと思うんです。生きる場所を無くし、木を切つて炭を焼き、それを売って生計を立てている民族がいます。だから、放牧させていた場所がほとんど無くなりました。ここから先の時代、子どもたちが生きていけないという不安を抱えています。今の生活を維持するために子どもたちに必要なことは、学校へ行って勉強することだと判断しました。もうすぐ、村の近くの森を切り開いた所に高速道路が通ります。（ジャクソンさん）

日本の皆さんへ

日本の方は非常に礼儀正しく、私たちマサイの文化に敬意を払ってくださいました。感動したことは、素晴らしい技術ですね。大きな橋があつてそれに驚きました。あとは日本の山の美しさ、山からこんこんと湧き出る美しい水、川、それに驚きました。そして、温泉が気に入りました。日本に来たことを幸せに思っています。ですから、日本の皆さんには是非、ケニアに来ていただきたいと思えます。私たちはお互いに知り合うことや学び合うことができます。（ジャクソンさん）
私もケニアから学んだこと、マサイから学んだことを日本の人たちに知ってほしいなという思いです。次は、うちの村で満天の星空の元、たき火を囲んで話をしたいと思っています。世界は近いです。ケニアなんかすぐそこです。飛行機に乗ればすぐ着きますから、是非お待ちしています。（永松さん）



RUBINGO SCHOOL ルビンゴ・スクール

この学校では、19人の先生が小学生783人、中学生300人の教育を任せ、授業は2部制で行なっている。先生たちは手作りの教材を使って楽しく学べる授業づくりをしている。



- ▲1年生のルワンダ語の学習。子どもたちは先生の言葉を聞き取り、教室横の黒板に素早く書いていく。
- ▲ウエルカムダンス。大勢の子どもたちが伝統舞踊と歌のパフォーマンスで我々を迎えてくれた。ユニセフが推進するクラブ活動の1つである。



ユニセフ ルワンダ事務所 ▲
ユニセフ 東南アフリカ事務所(ケニア) ▶

9月16日(月)～9月24日(日)
スタディツアーを実施。14人が参加。

ツアー参加者(敬称略)

東郷良尚(日本ユニセフ協会副会長)、大津司郎(ジャーナリスト)、井口正子、石本慎子、佐々木恵子、中地フキコ、中村弘子、福井沙織、福井康代、福武れい子、福谷真知子、藤村雅子、本田悠里、吉川景子



Unicef Office

WE ♥ AFRICA ルワンダ編

ユニセフ支援活動最前線

緑豊かな自然と伝統を大切に生きる人々が暮らし、「アフリカの奇跡」といわれる発展を遂げるルワンダ。現地ユニセフは学校教育や保健環境充実に力を注ぐ。ユニセフ支援活動最前線の報告です。



▲保健センター内。健診前に庭で生まれたばかりの赤ちゃんを抱くお母さん。

UMUCOMWIZA SCHOOL ウムチョムウィーザ学園

キガリ市内の閑静な住宅地に建つ。園庭に入ると、美しい花壇が目に入る。教室ではJICA派遣の協力隊員が授業を教え、図書室には日本から送られた絵本が並び、マリールイズさんの言葉とおりの『子どもたちの夢が育つ学校』には日本の教育の良さが根付いている。



交流のシンボルの壁画。▶
清潔な手洗い場。子どもたちは日本語のあいさつがとて上手。▼



毎日飲む ポーリッジ(おかゆ)

MAYANGE HEALTH CENTER マヤンゲ保健センター

ミレニアムビレッジ Millennium Village ●

国連を中心に農業指導、産業の誘致、学校教育、保健センター、コミュニティづくりに力を注ぎ、復興と再生の村づくりを進める地域である。訪問した学校には給食室があり、毎日ポーリッジを出し、週2回はゆで卵を出している。保健センターでは、母子健康プログラムをもとに保健指導から出産まですべてを無料でやっている。村の

推進役たちは、「私たちは支援ではなくall togetherで復興している」と、話した。



今まで使っていたトイレ。新しいトイレが6つ設置されたが男女共用。女生徒が安心して使えるトイレがあれば…。

伝統的な手洗い器。水は遠くの水場から運んでくる。洗面器にたまった水も大切に使うそうだ。



JALI SCHOOL ジャリ・スクール

キガリ市内から離れた山の上に学校は建っている。授業が2部制のため、午後の授業を待つ子どもたちは学校の周りで遊んでいた。校長先生は、「子どもたちに優しい教育環境を整えていきたい」と、話された。



▲全国一斉のテスト中。教室の明かりは窓からの採光だけがたより。

ルワンダの学校教育

ユニセフでは、各国政府と共に、子どもの権利条約に従い、「子どもに優しい学校 = Child Friendly School(CFS)」づくりに取り組んでいる。学校を単なる学びの場とするだけでなく、質の高い教育のための教育課程や教材の開発、教師の研修、保健指導、男女別トイレや給水設備、スポーツ道具の提供、課外活動やコミュニティ活動(保護者会)、教育の啓蒙活動などを推進し総合的な支援活動を行っている。

今回訪問したのは、CFSの基準に満たないJALI SCHOOL(小学校)、ほぼその基準に達したRUBINGO SCHOOL(小中学校)として、私たちの友達、マリールイズさんのUMUCOMWIZA学園(私学の幼小)3校を比較することで理解も深まるという配慮からだ。

ルワンダの義務教育は小学校6年中学校3年(無償)で、2009年に以前の仏語での教育から英語教育へと転換したため、英語教員の確保が困難であるらしい。また初等教育就学率が95.9%はアフリカで最も高いのだが、修了率は75.6%と問題も多い。しかし、国づくりに向かっているという志が先生からも子どもたちからもひしひしと伝わってきた。ルワンダをして、子どもたちの輝く未来に大いなる希望を抱いている。

(中村 弘子さん)

4 ICA-AP 女性委員会交流会でユニセフ製品を頒布



11月27日(火)、国際協同組合同盟(ICA)アジア・太平洋地域(AP)総会の女性委員会交流会がコープこうべ生活文化センターで行われ、ユニセフ製品の頒布を行いました。

ICAは世界各国のあらゆる分野の協同組合の全国組織が加盟する世界最大規模の非政府組織(NGO)で、2012年は国連が定める国際協同組合年でした。

3 第34回ユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金活動

テーマ ワクチンで、守ろう小さな命

※予防接種によって防げる病気で奪われる年間120万人の幼い命。アフリカでは4人に1人の乳児がはしかの予防接種を受けていません。



12月15日(土)、23日(日・祝)の2日間にわたって、姫路、加古川、垂水、須磨、元町、三宮、住吉、西宮、伊丹、宝塚の10か所で募金活動を行いました。寒風吹きすさぶ中、多くの方が足を止め募金にご協力くださいました。ガールスカウトの皆さんをはじめ総勢101人のボランティアが参加し、募金額は295,181円にのぼりました。皆さまご協力ありがとうございました。

1 子ども未来プロジェクト2012

今年もチューリップの球根を届けました



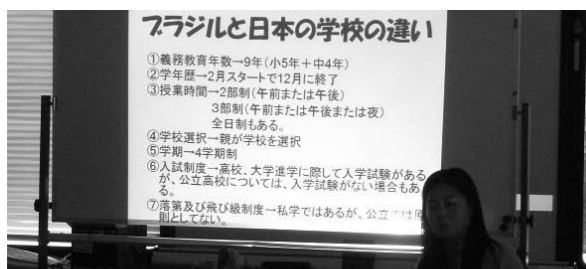
雪が解け、陽春の日を浴びて咲くチューリップが、子どもたちの心を和ませ、輝かせてくれますようにと願いを込めて、10月に岩手県の幼稚園へ球根を届けました。一口200円でご支援をお願いしていました球根募金。ご協力ありがとうございました。

5 ユニ・ボラ塾

会場 いずれもコープこうべ生活文化センター

第1回 テーマ 日系ブラジル人の子どもたちへの思い

日時 10月20日(土)
講師 小西三枝さん(小学校教諭)



日系社会青年ボランティアとしてJICAから、日系人の日本語教育、日本文化の伝承を目的にブラジルに派遣された学校は、日系ファミリーが4割を占める私立小学校。日本語、習字、ゴミの分別などを指導し、近くの公立小学校へはソーランの踊り方も教えに行った。

日本へ帰国後は、ブラジルでの経験を役立てたい、子どもたちがブラジルに帰っても読み書きに困らないようにという思いから、CKB(関西ブラジルコミュニティセンター)でのボランティア活動に参加し、母国語であるポルトガル語の学習支援に携わっている。

第2回 テーマ グローバル化の中で求められる共生

日時 11月17日(土)
講師 末吉洋文さん(帝塚山大学准教授)



日本での外国人の子どもは、公立小中学校と民族学校への進学を選ぶことができる。公立小中学校へ進んだ場合は、日本の子どもと同じ扱いを受けることもできるが自国の文化や言語を受け継ぐことは難しくなる。民族学校の場合は、各種学校や私塾の扱いになるため公的援助を受けられない。日本での外国人の子どもは権利はまだ守られていない現状がある。

とはいえ、日本では、これからも外国人労働者が増加しグローバル化が進むことが予想される。私たちは多くの外国人やその子どもたちと共に多文化共生の時代を迎えようとしている。グループワークでは、多様性(ダイバーシティ)を認めあい、共に生活していくにはどのような配慮が必要かについて話し合った。

2 トライやるウィーク

11/5~9 神戸市立御影中学校2人
11/12~16 神戸市立本山中学校2人
神戸大学附属中等教育学校明石学舎2人



トライ! やるぜえ~!

今年も、「世界のこと、ユニセフのことを知りたい!」とこれからの国際社会を担う子どもたちがやってきました。朝の掃除、学習チームボランティア講師によるユニセフ学習、またマリールイズさんの講演会への参加やユニセフ製品の頒布体験など盛りだくさんのプログラム。調べ学習では個々のアイデアや特技を生かす素晴らしい作品が出来ました。一週間で懸命に取り組んだ充実感に満ちたすがすがしい表情が印象的でした。

協力団体の紹介

A-Bridge Cup実行委員会

A-Bridge Cupは、例年12月、神戸・明石を中心に開催されるサッカー大会です。「世界中の子どもがサッカーをできるように」を合言葉に、毎年大会参加費の一部を募金として協力いただいています。



Activity File

活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2012年9月~2012年12月

活動一覽

Activity List

学習会訪問活動一覽

月日	訪問先	対象	人数
10月12日	大阪経済大学	大学生	20
10月13日	兵庫県青少年育生リーダー研修	一般	15
10月16日	神戸国際中学校	1~3年生	68
10月22日	神戸大学附属明石小学校	6年生	78
10月25日	神戸市立北山小学校のびのび学級	1~4年生	30
10月30日	コープこうべ広報担当	一般	20
11月12日	甲陽園コープ委員会	一般	50
11月13日	西宮市広田町自治会	一般	20
11月30日	宝塚市立売布小学校	6年生	150
12月 4日	兵庫県立須磨磨友が丘高等学校	高校生	6
12月16日	ボーイスカウト神戸第52団	児童	30

地域活動一覽

地域の活動に参加し、主にユニセフ製品を頒布しました。ご協力ありがとうございました。

月日	イベント名
9月16日	コープこうべ第4地区平和のつどい
10月~11月	コープこうべ組合員まつり(地域名:夙川、苦楽園、三木緑が丘、西宮東、甲子園口、東加古川、志染、稲美、上郡、姫路西、甲東園、甲陽園、打出浜、姫路田寺、相生、姫路東、たつの、太子、浜芦屋、宍粟、神吉、高砂、武庫川、姫路南、佐用)
10月27日	姫路市医師会看護専門学校
10月27日、28日	きょうどう学苑祭
11月10日、11日	兵庫県ふれあいの祭典
11月11日	ユニセフカップ西宮
11月18日	コープこうべ第2地区平和のつどい
11月27日	ICA-AP女性委員会交流会
12月8日	ひょうご女性みらい会議
12月9日	コープこうべ第3地区ボランティア交流会

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座	手数料
アフリカ干ばつ	アフリカ干ばつ K1-280兵庫	00190-5-31000	免除
東日本大震災	東日本大震災 K1-280兵庫	00160-2-372895	ご負担 下さい
ハイチ地震	ハイチ K1-280兵庫	00190-5-31000	免除
自然災害	自然災害 K1-280兵庫	00190-5-31000	免除
人道危機	人道危機 K1-280兵庫	00190-5-31000	免除

*共通口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

あなたもボランティア! Volunteer

ユニセフという言葉は知っているけれど、どんな活動をしているんだろう。世界の子どもたちのために、私のできることはなんだろう。「できる人ができることを できる時に」活動しています。お気軽にご連絡ください。

Wish

ユニセフ兵庫ニュース
vol. 39
2013年1月号

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2013年(平成25年)1月発行

発行:兵庫県ユニセフ協会

住所:〒658-0081

神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

電話:078-435-1605

FAX:078-451-9830

(お問い合わせは平日の10:00~16:00)

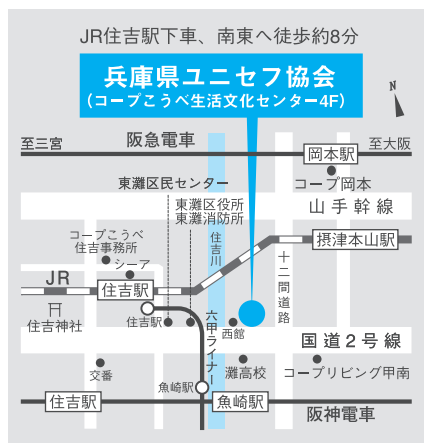
●最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫県ユニセフ協会

検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

世界のともだちと
心をつなごう

第11回
ユニセフのつどい
Unicef Festival

ひろげよう、みんなの笑顔。

unicef
世界の子どものために

3月10日(日) 参加費無料
10:15 ▶ 15:00
コープこうべ生活文化センター2Fホール

お申し込み、お問い合わせ先 事務局 **078-435-1605**

NEWS お知らせ

**子どもたちが見た東日本大震災
「EYE SEE TOHOKU」**
～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～

日 時:2月26日(火)~3月13日(水)

会 場:兵庫県国際交流協会 ひょうご国際プラザ

ユニセフセミナー

「子どもの権利条約」の基礎学習からワークショップまで、多くの学びを用意しています。

講 師:浜田進士さん

日 時:4月27日(土) 10:30~16:00

会 場:コープこうべ生活文化センター

ユニセフ入門講座

日 時:5月25日(土)、6月29日(土)

会 場:コープこうべ生活文化センター

BOOTH 出展参加

2/10(日) 神戸バレンタイン・ラブラン	2/24(日) コープファミリーフェスタ西宮	3/9(土) 祭inすみよし
3/17(日) 神戸国際交流フェア	3/24(日) ふれあいまつりin塚口	4/14(日) ユニセフカップ 芦屋国際ファンラン

● 事務局ニュース ●

兵庫県ユニセフ協会「第4回理事会、第2回評議会」を開催しました

日時:12月10日(月)

場所:コープこうべ生活文化センター

2012年度の事業報告と決算見込みに関する件、2013年度の事業と予算に関する件、役員に関する件、すべての議案に了承いただきました。また、2013今年度は、兵庫県でのユニセフ活動エリアの拡充、「ユニセフひょうごサポーター(賛助会員)」をより一層充実、広めていく等を確認いただきました。

ユニセフひょうご サポーター



賛助会員募集中!!

賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支援してください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。